高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町中一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任者　山中忠史
柴田明子

第22回 文化祭

見よ！一年間の成果

第二十二回文化祭が、十月四日（土）・五日（日）の二日間にわたってはなやかに開かれる。今年は、一般参加も認められ、今までの文化部のみの祭典と思われていた〝文化祭〟から、阿倍高生全員の〝学園祭〟となるであろう。各文化クラブのこの一年間の研究の↖

↙成果と、各グループの研究結果・催し物などを、単に〝祭〟として見るだけでなく、これらの事を通して、現在の阿倍高を、よく知ってもらいたい。

初の一般参加行なわれる

九月二十八日（日）今から約一週間前に、華々しく開催された体育大会、その閉会後、初めての、コーラスファイアー自由参加が実施され、フォークダンスを踊ったり歌を唱ったりして、楽しい一日を過ごした。

それから、今日の文化祭まで、一週間、この短期間での準備は大へん苦しい、忙しいものであったが、各クラブとも、一年間の成果をりっぱに発表しようと、大へんな張り切りようであった。

今年新しく認められた文化祭一般参加、その一般参加に出る人達も一生懸命に準備や練習に励んでいた。

一般参加実現については、執行部や、一般参加のために結成された審査委員会などが、それぞれ、アンケートをとったり、又、参加者についての選択などを行なったりして、準備したその努力の賜であろう。この文化祭一般参加によって、今までは、文化部だけの祭典だとしか考えられていなかった文化祭が、みんなのための発表機関となったのである。もちろん、文化クラブのように、一年間の成果の発表とまではいかなくても、それぞれが、グループを組み、一つのことに取り組んで、討論なり展示なりの場をもつということは意義深いものであろう。が、その内容については、やはり文化祭の発表にふさわしいものであってほしい。一般参加の行なわれる場所については、何といっても、文化クラブを優先し、その他の余った教室が、割り当てられている。この初の試みが、良い成果をあげることを、期待している。

今年の各クラブ、グループ（一般参加）の発表内容は次の通りである。

▼クラブ▲

図書部
・太宰治について
写真部
・体育祭の写真・個人写真の作品
写真で見る阿倍高史
ブラスバンド部
・消えた軍隊・ラ・クンパルシータ・ピアだるポルカなど
放送部
・放送劇「海の歌」・サテライトスタジオ
E・S・S
・英語劇「ロミオとジュリエット」
映画研究部
・アカデミー賞とスクリーンミュージック
演劇部
・「詩人の楽園」作・椿和実
演出・吉岡隆志
・芸術と人間性の真実を追求する人々の物語
音楽部
・オペレッタ
軽音楽部
・ドントレッツミーダウン・ストレンジブリュウ・アウトサイドウーマンブルースその他
軽音楽フォークソング班
・夕陽よおやすみ、木薬の丘・マイハート・etc
社会科学研究部
・安保の内わけ
生物部
・会雨山塊倶留尊高原池ノ平の開発についての自然保護と観光開発問題・昆虫その他の展示
煎茶部
・お点前
茶道部
・お点前と飲み方指導
地理研究部
・夏期旅行の研究結果・諏訪湖周辺の産業
点字部
・弱視教育について・盲人の職業について・点字講習など
美術部
・高校展作品展示・個人作品展示
etc
文学部
・人物及び作品の総合研究・部員の作品発表及び機関誌の発行
華道部
・作品陳列
歴史研究部
・埋葬と墓の研究
洋舞部
・くるみ割人形から（行進曲・スペインの踊り・コーヒーなど）
書道部
・かけじく・たんざく・色紙の展示・写真の説明
▼一般参加▲
物理教室にて
・お化け屋敷（午前10～12・午後2～3）
中庭にて
・ヨーヨーつり・輪投げ
図書館前の教室にて
・〝安保問題〟一般討論会
北舎三階教室にて
・歌・ゲーム・討論会（午前10～12）
新館二階教室にて
・フォークを取り入れた討論会（午前9～12・午後1～3）
柔道場にて
・ゴーゴーを踊る会・フォーク公演（一年四名・三年の少数出演）

今年から初の文化祭一般参加

今年から、初の試みとして、文化祭一般参加が行なわれた。が、これは執行部やその他の力によるもので、議会や、関係ある教師側と討議を何度も繰り返しやっと実現できたものである。ここで執行部の、一般参加への考えなどを聞いてみた。

〝過去数年来の宿願であった文化祭一般参加は、本年度にようやく実を結んだ。初め執行部ではクラス単位自由参加を議会に提出した。討議、協力など民主主義の根本をこれにもりこもうと考えた。

しかし、クラス討議に於いて、「自由参加にしろ」との声が強く結局そう決定した。その意見の中には、「自分はしたくないがやりたい者の為に一般参加を認めてやろう。」というのが多かった。すなわち、自分はしたくないから自由参加にしろというのであり、自分がしたいから自由参加にしろではないのである。そこで職員会議に自由参加の形態を提出した。色々と意義づけをして、結局職員会議においてはバザーは保留で自由参加が認められた。バザーは我が校の文化祭の目的にそぐわないというのが一つ、それからバザーを除外した一般参加なら文化祭を成功させられるだけの目途が教師側についたということである。

それで我々執行部と教師側と三度にわたって会談を行なった。その席上で教師側は一文化祭の目的は、文化クラブの一年間の成果の発表が従来の形である。家庭クラブについては、他のクラブとは違って教材がかなり入ってきてはいるが、これもやはり一年間の成果を発表するということである。

しかし、一般参加の希望が相当強いという事と、ある程度の見通しがついたという事などで一般参加は認め、成功するよう指導していい。」と決めた。

バザーについて我々執行部では力量不足でバザーを文化祭の目的に組み入れるだけの論拠なく、やむなくバザーを取りやめた。しかし、今回の一般参加によって従来の文化祭の意義が大きく変わった家庭クラブについては、文化祭に於ける会計全面公開、利益を見込まない事、多少の利益があった場合は福施設などに寄付するという条件をつけて参加を認めた。家庭クラブに対しての存在、活動などに疑惑があるが、それについては皆と一緒にじっくり考えて行きたいと思う。

ここで一般参加に関して、もっと詳しく説明すると

▼主旨▲

文化祭は生徒の自主活動の一環として在り、自主活動とは、広い意味での社会や自分自身に対する責任において独立するということである。そこで一般参加をすべきしたいなどである

一般参加を行なうについては、審査会というものが結成され、それについてのすべての権限は、審査会にあり、次のような事ならを決定している。

・使用場所割当を決定する（使用場所は一二の五、七、二の一、三の六、物理室の各教室と道場、グラウンドに限る）

・参加者は責任者と会計を置く
・学校の公共物借用は責任者同志交渉する。
・必要経費は、自治会からの一部補助を除くすべてを参加者が負担する。
・準備の居残りは許可しない。

なお、バザーについては〝火を使わない〟〝ガスを使わない〟など条件を出されたので、許可しないことに決まった。

校内食堂のみわ

補助予算

本年度も、文化祭が開催されるにあたって、各文化クラブと自治会執行部との間で、文化祭補助予算の要請と折衝が行なわれた。

文化祭補助予算を決定するにはまず、各クラブから必要な要請額を聞き、それを基にして、自治会執行部で討議され、それから又、部長会議を開いて、承認してもらって始めて決定される。毎年、各クラブ共要請金額は、たいへん多いのだが、決定額は大部分のクラブが、たくさん減らされている。今年は、歴研・煎茶以外はみんなけずられていて、中でも、生物部は要請額二万一千五百円に対して決定額三千七百円と約六分の一の大幅な減額である。なお、昨年度と比べて、増額のクラブが十六、反して減額のクラブが、五という結果に終わっている。又、本年度最高額は、美術部の三千九百円、最低額は点字部の一千七百円である。

今年は、新聞部・宗教研究部・ハーモニカ部の三クラブが、文化祭補助予算を、取らなかったのでお金があまり、それを各クラブに均等分配したので、最終的には五百円プラスとなった。

クラブ名	要請額	決定額
図書	3,970	2,550
ブラスバンド	5,000	2,800
放送	5,000	3,150
E・S・S	3,990	2,700
映研	2,800	2,400
演劇	5,800	3,500
音楽	3,350	2,600
華道	5,180	2,500
軽音楽	6,010	3,640
茶道	2,770	2,500
社研	7,000	3,000
写真	2,200	2,000
書道	4,080	2,500
生物	21,500	3,700
煎茶	3,000	3,000
歴研	8,880	3,260
地理	1,900	1,700
点字	6,240	3,900
美術	2,580	2,000
文学	3,000	3,000
歴研	3,120	2,500
洋舞		
合計	107,370	58,890

本年度の全生徒からの臨時徴収費は、昨年度と同額の一人当たり二百円であった。

各クラブの文化祭補助予算の要請額、及び決定額は、左表の通りである。

部説

考えよう 真の講習の姿を！

長い夏休みがあけ、まる一カ月が過ぎた。二学期には、体育大会や文化祭など、いろいろな行事があり、自治会の活動も今が一番、ピークといえるであろう。

夏休みがあけるとともに、議会が何度も召集されていた。中でも講習問題については、議会なり、各クラスなりで、いろいろと討議されていた。とはいうものの、まじめに考えて、自分の意見を持っていた人は、一体何人ぐらいいたであろうか？疑問である。「受けたいものは、自分から進んで受けるのだから勝手にお金を払って受ければよい。」と人ごとのように考えている人が、案外多くいたのではないだろうか。

結局、この問題については、講習の係りの先生が、マイクを通じて、全校生徒に説明したことで、一応おさまったように見えたが、今、まだ一部の生徒のなかで、これについて不満に思っている人がいるようだ。

「もっと、個人個人が講習ということに対して、考えるべきではないだろう

ここで、講習の現状というものを考えてみよう。

申し込みはしたけれど、規定時間（八時間）中、二～三時間しか受けていない人。又受けていても、他の事をしたり、外を見たりほとんどまじめに聞いていない人が多い。つまり、他人が受けるから自分も受ける。受ければ、受けないより少しはましだろうなど思う。だから休みに入る前に、講習ということを、再確認させてほしいものだ。

我が校は、講習に対して、絶対強制ではなく、生徒の希望で行なっている。つまり講習を生かすも、殺すも、生徒にかかっているといってもいいのではないだろうか。

というといかにも生徒たちの手でということになるが、やはり、教えていただき、かつ、相談にのってもらうという先生がいなければ何もならないことは諸君もよくわかっているはずだ。先生と生徒が共により効果のある講習を、いっしょに考えていく。

そこにむずかしい、真の講習の姿を見い出すことができるのではないだろうか。

× × ×

今の状態では、いっそうのこと講習を廃止した方が、ましなのではないだろうか。

しかし、真面目に勉強しようといきごんで講習を受ける人もいるだろう。少しでもこの問題がわかるようになれば、疑問点をなくそうと真剣に講習にのぞんだ人もいるのではないだろうか。そんな人達にとっては、〝講習廃止〟というのは大きな問題になってくる。まして三年にとっては、受験という道にもつながるし、又その他にも学力の点にも大いにプラスになるのではないだろうか。

生徒諸君の中には、お父さんやお母さんに無理やり申し込まさせられる人も多いという。

先生方も出席者の少ない授業だと張り合いもなくなるだろう

これでは真の講習という意義がなくなるであろう。

ではいったい真の講習とはどういうことであろうか。講習と短時間で決まるものではないと思う。

やはり校側に問題が生ずることは、うまいまでもない。いったいどうすればいいのか。

休みを利用してする講習にはとかくいろいろな問題点が多い。

学校側に対しての要望があるのなら、学校側が決める前に、各クラスなり、議会なりで、生徒と先生が共に、講習で何をするか又どのような方法でやっていくか、全員が出席した方がいいか、又自由参加でもいいような方法を取るか考えるべきではないだろうか。

そして学校側に対してもそうしてほしいと望む。

だがそうする前に、何かを学校側に問題が生ずることは、いうまでもない。いったいどうすればいいのか。

休みを利用してする講習にはとかくいろいろな問題点が多い短時間で決まるものではないと思う。だから休みに入る前に、講習ということを、再確認させてほしいものだ。

昨年、初の試みとして、三年生強制参加のもとで実施されたコーラスファイアー、今年こそは、自由参加に、と執行部が早くからコーラスファイアー委員会を結成して、頑張っていた。七月頃から、アンケートをとっていろいろと調査を重ねたところ、圧倒的に自由参加希望が多かった。（アンケート結果ます〝コーラスファイアーをやる気があるか？〟という問に対して〝ある626名〟〝ない99名〟〝やる気のある人が、大多数を占めており又、〝参加方法については〟というのに対して〝自由参加693名〟〝強制参加47名〟であった。）

そこで、委員会は、幾度も集まって討議し、綿密な計画をたてて、その原案を学校側に提出した。その内容は次のようなものである。

・日時　9月28日
・場所　第二グラウンド
・参加形式　自由参加（前もって参加するかどうかを明記しておき参加すると答えた者には半強制的に参加してもらう）
・下校時刻　6時30分頃の予定（父兄の実印のある許可書を得ておく）
・目的　綿密な計画をたて、周到な準備による活発な実行は生徒活動の最臨である。（その他、職員と生徒の親密化や生徒の連帯感を強める、等、去年とほとんど同様）

又、参加者各自の荷物はそれぞれ自分の場所に置いておく、ということである。

場所については、昨年、〝火をたくと土がいたむ〟ということで体育科の先生方が、第二グラウンドを使用することを拒否された。

コーラスファイアー 自由参加行なう

体育大会終了後

火事の危険性については〝ファイアーの方法（材料や器具の工夫）や消火器具の準備、その上生徒の協力で、消防署への連絡もとり絶対に安全だそうだ。その他、グラウンドのまわりの一般家庭も一軒一軒まわって、承諾を得たとのことであった。

又、歌集の製作や、コーラスファイアー運営についてもフォークダンスやその他いろいろと話し合い計画をたてていた。

昨年は三年生だけで行なわれたコーラスファイアー。やっとのことで自由参加となった。順序から言うと「それが当然だ」と思う人があるかもしれないが、その裏にコーラスファイアー委員、その他の人の〝努力〟があったことを忘れてはならない。

講習問題について 議会報告

去る九月八日の議会で〝講習問題について〟が討論された。そこで、簡単にその議会内容について報告いたします。

―講習を試験休みにしたということについて―

・今年度は、十四日より後の方に二、三年の学校行事があるので、早くすませたい。
・試験後の採点は重労働なので、そのために休みを取る。その採点の合間をぬって、講習をする。

―講習の費用の徴収について―

・教師の本務以外である講習を、本来休みである時にやるとて、若干の謝礼がでるのが普通である。又中学の時は無料で、高校ではそうでないのは、中学の時は進学指導料をとっているので無料で、高校では教師の本来の職務についただけの、先生方の給料が払われ、それ以外について、謝礼がでて普通である。

―教科書の使用について―

・教科書を使った事については、担当の先生の処置が、皆に思わぬ誤解をあたえた。教材の中の必要な部分をやるので、最初から残る予定のところを講習の時に、そこを使う。
・お金を出して、テキストを買わすという負担をかけるのは、悪いので、今度からは、そういう誤解を招く事はしない。

以上、生徒からの講習についての疑問に対する、先生からの解答を議会報告として、そのままこに載せました。

なお、全生徒には、マイクを通じて、講習の係りの先生から、この疑問点に関しての解答が、伝えられました。が、この他にも、疑問が生じ、いぜんとして、議会では、この問題が討議されている、ということです。

学校諸問題について

ビラ配布について

九月十八日（木）我が校の校門で朝、三年生の一部の人が、ビラを配布していた。そのビラの内容は次のようなものであった。「現在、行なわれている学校側の干渉及び検閲は、不当な権力である。」このビラ配布にあたっては、正当な段階をふんでいなかったということで、学校側と話し合っていた。その日、三年生の少数のクラスでは、三～四時間をH・Rに置きかえてもらったそうである。

ウォータークーラー設置

一学期末に、待望のウォータークーラーが、新館の西側入口の二カ所側と旧館南舎の西側の一階廊下の北に取付けられ、七月十九日より使用できるようになった。

ウォータークーラーに、かかった費用は、本体が十二万二千八百円（二台）、それに取付け工事費が三万二千二百十円で、総計十五万四千十円であった。これは、PTA委員の方々からの寄付で、まかなわれた。

切り取られた木々について

夏休みのある日、本校中庭の木々の枝が多数切り落された。原因は、アメリカシロヒトリという害虫が、木々をあらしまわったからだそうだ。本校の木の多いことは外部でよ　知られ、又、石庭が出来てよい休息の場所となっていただから、この害虫のために、そういう場所のなくなったのは、とても残念である。このアメリカシロヒトリは、吹田・豊中・仁川などで多数発生し、それが本校まで飛んできたらしい。吹田・豊中・仁川などでは、もう駆除されたが、この虫は、冬になると土に隠れてしまうので、駆除しにくくなるそうだ。四月には青葉が出てくるのでそれまでには、駆除しなければならない。そのために駆除薬デイプテレックスを使ったり、天王寺植物園の人達に忠告を受けたりして、駆虫に努めている。

盗難

今年の夏休み中に、約十件の盗難があった。その内の六件は、クラブ室で、三件は水のみ場等でおこった。被害金額は、二千五百二十円で、その他、時計等の品物が盗まれた。又、場所は不明であるが一万八千円が紛失する事件もあった。これらの盗難について、係のA先生は、「こういうことは、特にお互いが注意し合ってほしいクラブの場合は、貴重品を、貴重品袋に入れて、顧問の先生方に預けるなど、自分達でも、管理に十分気を配ってほしい。又、サイフは、いつも身につけていて、かばんの中などに入れておかないように。」と、おっしゃっていた。

針の穴

今年、初の試みとして実施された文化祭一般参加、執行部のご努力でやっと実現したものの、バザーの件については「水はよいが、火やガスは使ってはならない。」という条件つきだとか、火無しではバザーなんかできないですヨ。これならバザー禁止ということに違いないですナ▼やはり、古ぼけた木造校舎が燃えては？という心配から出た配慮でありますのやら、あれやこれやの条件つきで、やっと許してもらった一般参加。もうすでに多くの学校で実施されておりますナ▼その内容たるや、夜店顔負けの昼店とでも言おうか、○○喫茶、ヨーヨー釣から、果てはたこやき屋、金魚すくいまで種々様々我が校では、一体どんなものが飛び出すのやら、制限つきの一般参加に抗議デモでもやりそうですナ▼そしてこれ又、我が校でやっと実現された、コーラスファイアー自由参加、昨年は三年生の学年行事として以外ならば、絶対に許さぬといきがっていた先生方今年はどういう風の吹きまわしか、昨年の三年生の態度がよほど良かったのか、コーラスファイアー委員の原案が相当良かったのか？いや生徒の勢いが怖かったのかナ▼今年は第二グラウンドを使用してもよいとのお声があったとか。今年の一・二年たるや涙を流して喜んだとか▼それから最近、やたらと盗難が多いとか。先生曰く「盗まれるのは個人個人の注意が足らぬからだ。」それに対して「ロッカーぐらい作ってくれればよいのに。」とは生徒の偽らざる声であろう。特に運動クラブの更衣室での盗難が多いという。ドロボー君、相当のエッチとみてよいのかナ▼何にしても、盗難の多いのは困りますネ▼あ、そうそう、今年の講習について、天高が相当もめたそうナ何でも「試験休み中に費用をとって、講習するとはけしからん。」ということだそうだが、我が阿倍高も、このとばっちりをうけて、大へん騒いでいたようですナ▼この疑問たるや、大きな波紋をもたらしたものですナ▼果ては、講習係の教師が全校生徒にマイクを通じて、説明するにまで至ったようだが、この説明、どこまで、みんなが理解できたやら、チト疑問ですナ▼ある朝突然我が校にも、政治活動の手が回ってきました。これ又、驚くべき事件であります。一部の三年生が、学校側のきついおふれにもかかわらず、ビラを配ったとか？ビラの内容たるや「学校側は掲示物に対して干渉及び検閲をすることの不当な権力によって我々生徒を無視している。」とかですナ。三年生のあるクラスでは四時間もH・Rに使ったとか▼ビラ配りの当人たちは父兄同伴で先生がたと話し合いを、繰り返しているとか▼学校側もたかがビラぐらい？に大へんな泡のふきようですナ▼蟹君も、人間が泡をふくと知って驚いていることでしょうヨ▼ところが、どうでしょう。一般生徒諸君は素知らぬ顔。やはり阿倍高生は、政治問題など、関心がないのでしょうナ▼修学旅行もまじかの二年生など、関心はもっぱら、あちらにあるようですナ▼今後どうなることやら、阿倍野の春はいつになったら終わるのやら針子も心配デスナ。

我々は正々堂々と
戦うことを誓います
映研
教室2の7

秋です！
点字部です！
3―3です！
私のムードの
点字部へ

E.S.S.
貴方の心をとりこにする
コンピューターあり
ジュースありの
『E.S.S横丁』
エッサッサ
是非おいで下さい

来たれ！
しゃしんぶ
会場3の5

軽音楽部
フォークソング班
皆で歌おう
〝現代民族歌謡〟
1―4教室にて
10月4日（土）

♪ ♪
ブラスバンド
♬

若人の祭典 体育大会 第22回

☆ 心配された台風にもまぬがれ9月28日（月）、秋の日ざしをうけて、自治会 ☆

☆ 会長南口君の宣言とともに開会された。盛大な応援と熱気に満ちた各演技・ ☆

☆ 競技が活発に行なわれた。初めてコーラス・ファイアーも自由参加になった ☆

☆ が、その一間半も短く感じられぐっと熱が入り、まずは無事すべて修了した。☆

Dグループ圧勝

今年も昨年と同様、ABCDと四つのグループで、競技が競われた。そしてその結果、昨年のPTA副会長土本久男氏と有志の方々からいただいた優勝カップをみごと、Dグループが勝ち取った。

昨年、学校側の不手ぎわで、レコードが間に合わなくなって、あわてたという一幕があったが、今年は、快調に朝の体操から始められた。

なお今年は、陸上競技的なものが二・三減り、走りの速さにあまり関係なく、みんなでゲームを楽しめることができるようにということで、〝一五〇〇米競走〟〝四〇〇米競走〟や〝目かくしゲーム〟〝球技リレー〟が姿を消し〝アベック二人三脚〟〝綱ひき〟〝騎馬戦〟〝八〇米ハードル〟〝二二〇〇米耐久リレー〟などを、新しい試みの種目が増えた。又、〝パン喰い競走〟が復活種目として、またまたおめみえした。

〝アベック二人三脚〟は、男女のペアでトラックを一周して競うゲームで、大変人気を集めた。意気が合っていないと二人いっしょにころんでしまうので、かなり悲壮な姿であった。

又、全学年女子だけで、ABグループ、CDグループと二つに分れての〝綱引き〟は、応援もそぼまでかけつけての熱演であった。

一年生の〝騎馬戦〟は、相手の服を脱がすという、ちょっとハラハラしたところがあったが、力があまってしかたがないという感じであった。五〇米余りをうさぎ飛びを行って、又走るという〝二二〇〇米耐久リレー〟も注目された。

期待された〝パン喰い競走〟は走らずに、歩いて行くものがいたりして、あまり想像していたほどおもしろくはなかった。なお一年の〝プロムナード〟二年男子の〝組み立て体操〟三年男子の〝柔道体操〟や〝女子創作ダンス〟は例年通りであったが、観覧席から多くの拍手をうけていた。

やはり相変らず人気があるのは〝着付け競走〟で、流行のコマーシャルを取り入れたものも二・三みられ、相当奇抜なアイディアのものもあり、変化にとんで大変おもしろかった。

〝障害物競走〟では、網をくぐるところが、相当困難であったらしく多くの選手は、ここでメガネやハチマキなどをおとしていたが、最後まで障害物に対抗して走るという点では、大変な努力である。

毎年、昼食事に行なわれるクラブ行進は、今回は午前中に行なわれた。日ごろの運動部の成果のあらわれであろうか、かなり引きしまっていて、見ていて気持ちがよかった。又、ブラスバンドとバトンガールとのすばらしい行進が観客の人気を集めていた。クラブ行進とブラスバンドの行進をいっしょにして行なったのは、大変良かったようである。

あやぶまれた天候も、さいわい雨にもならず盛大な応援の進行とともに、昨年よりもずっと進展した体育大会であった。

※ ※ ※

体育大会結果

グループ名	クラス名	得点
A	1年 8・6 2年 4・5 3年 2・3	189
B	1年 2・4 2年 1・7 3年 1・5	191
C	1年 5・7 2年 2・6 3年 6・7	194
D	1年 1・3 2年 3・8 3年 4・8	224

応援態度 迫力ある応援

今年度の応援は、各グループとも大へんな熱の入れようで、早くから、放課後遅くまで残ったり、朝早くから学校へ来たりして、練習に励んでいた。その練習風景も大へん厳しいものであった。応援団の人数も、昨年の三～四倍も集まり、その規模の大きさは、例年にない、はでなものであった。

グループは、例年どおりABCDに分かれ、それぞれ各グループが、応援の形や、洋服などに趣向を凝らして頑張っていた。

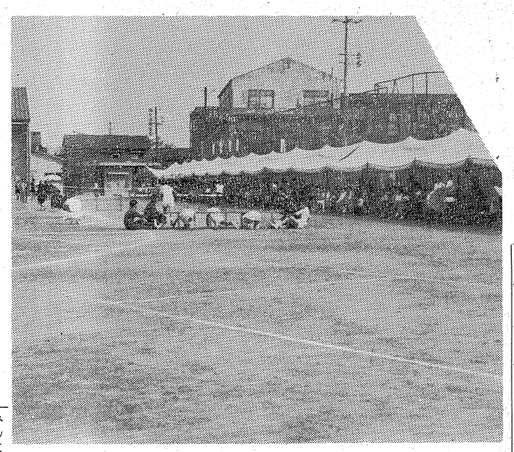
デコレーションは、例年と変わりがないようであったが、マンガの主人公を掲げているグループが増えていた。

応援合戦の結果は、観客の方々によって、一番良いと思ったグループから、四点、三点、二点、一点と点をつけていただいて、次のように決定した。

優勝・Bグループ二八五点（その他、A一三七点・C一六九点・D一七七点）

Bグループは、制限時間を、オーバーしたが、そのファイトを買われたのであろう。又、アイデアも大へん奇抜で、傘やその他、はやり言葉など巧みに盛り込んで、面白味を加えたものであった。何でも団員がそれぞれ思いついたアイデアを、どんどん取り入れたそうである。又、Dグループなどでは後ろの一般生徒に、小さい三角旗を渡しての熱演であった。全体的に二年生進出の目立った応援であったが、「やはり、一年生の後援がなければ……」という声もあった。

コーラス・ファイアー 初の自由参加



本部席をのぞむ

障害物競争の光景

体育大会終了後、第一グランドにおいて、フォーク・ダンスが行なわれているかたわら、着々とコーラスファイアーの準備がなされていた。五時頃、冬の体操服に着がえて、各グループごとに指定の場所についた。

五時過ぎ、山田君の持ったいまつの火が、門のところから、円陣の周囲の中央で待っていた長井さんのたいまつに移され、二人が、それぞれ、円の周囲から向き合うように、円陣の中に入って、二つの積み上げられたたき木に、火をともした。と同時にファイアーが赤々と燃え上がり、気分をぐっともりたてた。

軽音楽フォークソング班のリードで〝若者たち〟の歌から始められ、はやくもコーラスファイアーの気分にのった。しかし、マイクが少ないせいか、歌が二つに分かれたり遅れたりして合わない、という一場面もあったが、みんな楽しそうに歌っていた。

なお、コーラスファイアーに用いられた木は、三年生の一生徒の御父兄の方が、去年のコーラスファイアーの火が、あまりにも小さいので、それではかわいそうだ、ということで、遠く九州の福岡からトラックで運んで、取り寄せてくださったものである。この木は、くりの木で固く、鉄道の枕木を10本払い下げられた中学校から、わざわざこの日のために、我が校に再びもらい受けたものだそうである。校務員さんが、この木をたきやすいように、割って下さった。又、前にこわれたバスケットのシュート台も割って、くりの木に加えて、用意された。そのために校務員さんには相当御苦労をおかけした。

さて、この自由参加のコーラスファイアーについて、参加者にインタビューしてみた。

〝参加人数が少ない〟という意見もあったが、大部分の人が反対に〝多すぎる〟という意見であった。〝先生や警備員の監視員が強すぎる〟という不満の声もあった。

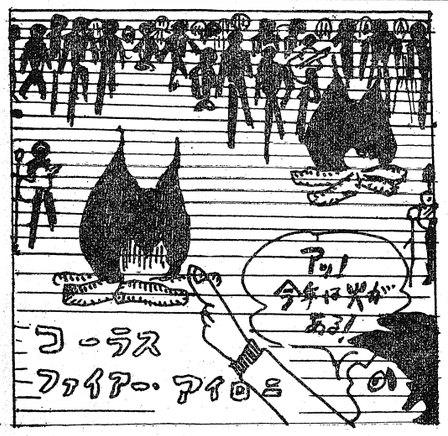
〝時間をもっと長くしてほしい〟という声もあったが、これは帰宅時間にもさしつかえるので、むずかしい問題である。又、その他に〝場所に限定があるが、もっと自由に〟〝学年もバラバラにして円をいくつかに分けてほしい〟〝先生も一緒に入ってほしい〟〝好奇心だけで参加しないでもっと考えてほしい〟など、活発な意見がいろいろと上げられた。

これからの自由参加は？という問に対しては〝もっと位置を固定しないでほしい〟〝男女がバラバラになって、二つの火をみんなで囲めるようにしてほしい〟という意見もあった。が、みんな適当にバラバラになっていたようである。

それからの内容に関しての意見は〝歌だけでなく他に演芸などもやってほしい〟〝マイクの声が小さい〟〝歌がない〟など、いろいろと苦情も出たが、初めての自由参加であったため、多少無理なところもあったことであろう。

しかし、このような苦情があっても〝同期の桜〟の歌のとき、肩を自然に組み合っている姿は、見ていて大変なごやかであった。

これからも、コーラスファイアー委員及び執行部は、〝これからも自由参加であってほしい〟という生徒の要望を生かして、どんどん改善しながら、よりよいコーラスファイアーを営なんでもらいたい。



仮装行列「矛盾」

体育大会も終わりに近づいたころ、毎年体育大会で、一番興味深い、三年各クラス特有の仮装行列が行なわれた。

今回の課題は、「矛盾」であった。どんなものがとび出すかと、期待されたが、題が抽象的であったためか、「矛盾」という題意に反した物の方が多かったように思えた。この題意は、各クラスの仮装行列委員の二名で決定されたのだが、どういうわけか、あまりにも抽象的すぎたようだ。又、幽霊のようなものが多く、似かよっていた。衣装は、自治会から仮装行列の費用として三〇〇〇円が補助されたが、なかなか手の凝ったものであった。中でも踊り子の、とてもすばらしい衣装や、本物のような棺桶がめだった。

毎年、気味悪いといわれるお化粧が、今年も同じようにされ、その上、まだ墨のようなものをぬって、真っ黒になった人が、握手を求めにくるのは、もう気味悪いのを通り越して、逃げたくなるぐらいであった。又、あめなどを投げるクラスもあったが、一部では、「私達は、乞食ではない、だのにものをくれるのに投げるということは、とても失礼だ。同じくれるなら、花をくれた人のように、ちゃんと手わたしてほしい。」という声もあった。

「矛盾」という題を知らない一年、二年もいたので、題を考えずに見ていたら、とてもきれいな人や、男女の区別のつかない人、大変気味の悪い人などがいて、おもしろいものであった。

ビラ配布事件について

執行部声明文

去る九月十八日、ビラを配った事について、僕は最初から、順に説明したいと思います。

まず、僕が考えた事は、阿倍高生の無関心状態は、どうすれば脱することが出来るか、ということです。そのための方法として、〝学校諸問題〟のところに取り上げた〝ビラ配布〟の関連記事である。どうしてビラをまくに至ったか、それはどんな意味を持っていたのか、又、配布者の反省、などを、当事者に依頼して書いてもらったものである。

これは、1面で

九・一八に思う

三の二　園山　徹

この事件以前に、彼らはある種のビラを配布するために自治会顧問に許可を得ようとしたところ、その様なビラを配布することは認めるわけにはいかないと許可しなかった。その時もそうではあったが、そこで彼らは合法的な手段、すなわち自治会を通すことをしないで、あえて今回無届け配布を断行した。

彼らは言う、「自分達の意志表示をする、それと同時に問題提起をする」と……。

この行動は我々生徒に確保されている唯一の民主的な活動の場である自治会を全く無視したものである。

すなわち、生徒及び議会などを含めた自治会・教師に対するはなはだしい不信の所産である。

この行動によって、彼らの言うある種の問題提起がなされたであろう。しかし、このような不合法な手段は許されるべきではない。いくら正しいことを言っても、自分の属している組織を無視した行動は、ただ単なる秩序破壊でしかない。もし、それが許されるなら自治会といった組織は皆無となるであろう。

ただし、この事件の前日において、執行部の一部ではこのことを察知していたが、このような大事に至るとは予測がつかず、あえて強くく、行動の中止を要請しなかったのは不徳の至りである。

彼らのとった行動に対して自治会執行部ではこのように批判をすると共に、自らの態度にも責任を感じる次第である。が、しかし、この事件を契機として阿倍野高校の諸問題及び民主化などについて改めて全員が考えてみる必要があると思う。

九・一八に思う

三の二　園山　徹

さて、その規律のあり方なんですが、どうでも、あればいいというものではありません。いはないか、と判断したわけです僕等の目的は、あくまでも、無関心派のために、問題を提起するということと、真に自由な、民主主義を守る大きな力だと思います。即ち、自由・民主主義社会においては、規律を守ることより、規律をよい方向に改善する事の方が、重要であると言えます。故に規律という、そもそも相対的なものを絶対化し、固定化することほど、社会の発展を妨げるものはありませんしましてや、正当性のない規律を守ることを強要するなどは、反自由・反民主主義といわなければならないでしょう。

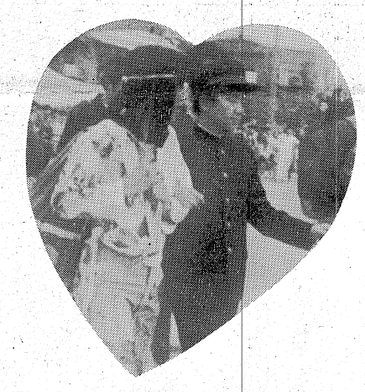
ソクラテスが言ったといわれている言葉に「悪法と言えども法なり」というのがありますがそれは明らかにまちがいです。悪法はすでに法ではありませんすると、そこで問題となるのはいかに悪法を良法に変えるか、ということです。その方法として――話しは最初にもどりますが――あの場合、正規の方法よりも、非合法の方が、良いのではないか、と判断したわけです僕等の目的は、あくまでも、無関心派のために、問題を提起するということと、真に自由な、民主主義を守る大きな力だと思います。即ち、自由・民主主義社会においては、規律を守ることより、規律をよい方向に改善する事の方が、重要であると言えます。故に規律という、そもそも相対的なものを絶対化し、固定化することほど、社会の発展を妨げるものはありませんしましてや、正当性のない規律を守ることを強要するなどは、反自由・反民主主義といわなければならないでしょう。

ソクラテスが言ったといわれている言葉に「悪法と言えども法なり」というのがありますがそれは明らかにまちがいです。悪法はすでに法ではありませんすると、そこで問題となるのはいかに悪法を良法に変えるか、ということです。その方法として――話しは最初にもどりますが――あの場合、正規の方法よりも、非合法の方が、良いのではないか、と判断したわけです僕等の目的は、あくまでも、無関心派のために、問題を提起するということと、真に自由な、民主主義を守る大きな力だと思います。即ち、自由・民主主義社会においては、規律を守ることより、規律をよい方向に改善する事の方が、重要であると言

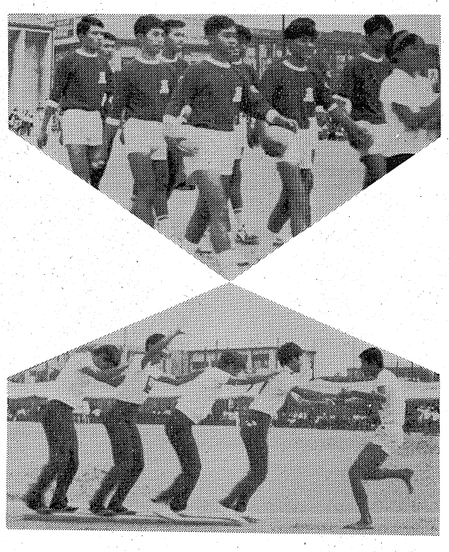
③ そろった大根!!（Bグループ応援）

② カッコイイ!!（ブラスバンド行進）

① 今、月から帰ってきたよ



④ 二度と見れぬ僕の彼女

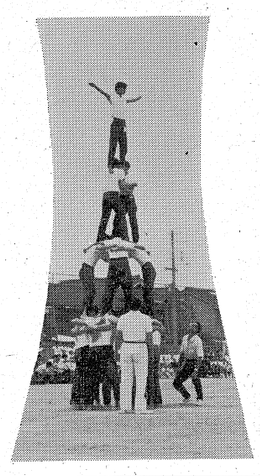


⑥ クラブ行進（ハンドボール）

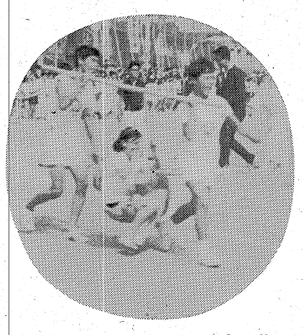
⑤ モーレツ!!赤ちゃん（?）登場

⑧ 負けてたまるか!!

⑦ オーイ！ ヤッタルで！



⑩ 見はらしいいナー



⑨ ウッ！ 軽い軽い（今は昔）

水泳大会中止

今年は、毎年学校行事として行なわれている水泳大会が、中止となった。その主な理由は、各クラスでとったアンケートの結果があげられる。その結果は、二十四クラス中、十二クラスが反対し、九クラスが賛成であった。そのうち一年の六クラスが入っているので「一年だけ行なえば良いではないか」という案も出たが、これでは、水泳大会の意義がない、ということで中止に決まった。アンケートをクラスごとにしたのは、水泳大会というものは個人対抗でなく、あくまでもクラス対抗であるためだ。

なお、アンケートで決めなければならないということは、水泳大会が、毎年低調であるということも、大きく影響しているのではないだろうか。例年、泳者も少数で時間が放課後だから、応援者も少なく、大会に活気がないので、何となく学年の一部で競っている感じである。しかし、毎年低調ではあったが、校内行事となっている水泳大会がなくなったということは、とても残念である。だから、何とかして、もう一度復活してほしいものである。

編集後記

今年は、毎年のように四面を出すつもりでやってきました。しかし途中で事情が変わり、二面になってしまいました。我々新聞部員としては、昨年のような新聞は出来ませんでしたが、精一杯やったつもりです。又、今回も例年のように体育祭と文化祭との間が、一週間しかなかった事は大きな負担でした。今回は、あまり皆様の希望される新聞は出来ませんでしたが、これからはがんばるつもりです。

今、一年生部員を大募集しています。どうぞ、一度部室までいらして下さい。

※ ※ ※

新聞部
部員募集
文化祭展示
〝新聞の作り方〟

演劇部
「詩人の楽園」
芸術とは？
人間とは？
部員募集!!

音楽部
初のオペレッタ公演
見に来て下さい
音楽部員募集

洋舞
皆さんを美しいあのロマンティックなクリスマスの夜にお誘いします。
P.M 2：30 より

ART CLUB
Sights of Wonder
World of the color!!